GyouseiNews.Com The Gyousei Chosa Shimbun 行政調査新聞

＜川越市＞

【川越市議会3月議会】

「多選」川合善明市長の市政方針から開会

令和3年を迎えて最初の川越市議会（3月定例会）が2月19日に開会した。議会初日、川合善明市長が長々と読み上げた空疎な「市政方針」から、4期目川合市政の幕が開いた。

「改革」「公正」「公開」が基本姿勢だったとは！

川合市長は演説の冒頭、次のような言葉でスピーチを始めた。

— 川合善明市長 —

私はこのたびの市長選挙におきまして、この歴史と伝統のある川越市の市政運営の舵取りという重責を引き続き担わせていただくことになりました。
「改革」「公正」「公開」という私の基本姿勢と、これまで取り組んできた3期12年間の市政が、評価をされた結果であると重く受け止めております。

本紙記者は、議会傍聴席から思わず「え？！」と声をあげそうになった。川合市長の基本姿勢が「改革」「公正」「公開」だったとは知らなかった。

３期１２年もの間、本紙は「改悪」「不公正」「非公開」が川合市政の三大方針だと信じていたのだが、４期に突入した川合市長は了見を入れ替えたのであろうか？

すると、現在も係争中の、川合市長と昵懇だった元市議・齊木隆弘氏邸前の私道を市道に不正認定したとして川越市が訴えられている住民訴訟も、４期目川合市政として態度が一転し、急転直下、裁判も住民勝訴で決着がつくということになる。

また「公正」「公開」が基本姿勢だと宣言した４期目川合市長は、新井喜一元市議を議員辞職に追い詰めたハラスメント事件を調査した「第三者委員会」の調査結果報告書も、川越市のホームページなどで公開しなければならない。

言うまでもなく同事案の調査にあたった「第三者委員会」の３人の有識者、弁護士らには市税から一定の日当が支払われたばかりか、全国のマスコミを騒がせた川越市職員を巻き込んだ事件だったのだから、その「第三者委員会」の調査結果報告書が「公開」されることは市の義務だが、川合市政はすでに２年間も同報告書を塩漬けにしたままだ。「公正」「公開」どころか「封印」「隠ぺい」ではないか。

川合善明市長は、「改革」「公正」「公開」を「私の基本姿勢」だと宣ったのである。

「市政」以前に、川合善明その人の「基本姿勢」が「公正」だと自分で言うのだ。

では、不正市道認定住民訴訟の原告市民らを相手取って名誉毀損裁判をいまも続けている「川合善明」という人物は別人なのだろうか？

いや、川越市長・川合善明氏と、住民訴訟原告市民の人たちに恫喝同然の手紙を出してさらに名誉毀損裁判を提訴して現在も係争中の「川合善明」は同一人物である。

その男が、いけしゃあしゃあと議会初日の演説で自分が「公正」であると自画自賛する。４期目川合市長を見つめる各市議が冷めた目つきに見えたのは本紙記者だけであろうか（もっとも議会傍聴者は本紙と一名の市民の方しかいなかったのだが）。

どこが「具体的な施策」なのか？

今議会初日の市政方針演説で、川合市長はこうも言っていた。

―川合善明市長―

次に「快適で安心できる川越づくり」でございます。

誰もが健康で快適に安心して暮らせることは、私のまちづくりの姿勢の基本としているところでございます。喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症の拡大防止に注力するとともに、近年各地で猛威を振るっている大規模自然災害からも市民を守り、被害が発生しても迅速に回復するための強靭な地域を作る施策を進めてまいります。

具体的な施策といたしましては、新型コロナウイルス感染症の蔓延を予防し、市民の皆様の生命と健康を守るため、医療機関等と連携、協力しながら有効で安全なワクチンの接種を迅速かつ円滑に行ってまいります。

傍線は本紙註釈だが、**「具体的な施策といたしましては」**と言いながら、続く発言内容はなんらの具体性が示されていない。ここで川合市長が蕩々と語っているのは**「私は市長として公務をやります」**と言っているだけの、あまりにもトンチンカンな宣言なのである。市長が**「感染症の蔓延を予防し」「市民の皆様の生命と健康を守る」**ことなどは当たり前なのであって**「具体的な政策」**が聞いて呆れる。

現在、菅総理の対コロナ政策の無策ぶりに国民、野党と自民党内部からも批判が集中している社会情勢も、川合善明市長には対岸の火事ようだ。

川合市政の明らかな「コロナ無策」！

では、川合市政は具体的などのようなコロナ対策で市民を守っているというのか？

市の保険医療部保健医療推進課に聞くと、**「川越市独自のコロナ対策」**として、医療機関等への事業継続支援として**178,525,000円を給付**し、川越市医師会夜間休日診療所への事業継続支援には**合計35,000,000円を給付**したという。

これだけで**約2億1千万円余**となる給付金は**川越市税**から出されている。

だから**「川越市独自」**の対策だと市は説明する。また昨年から実施したこれら支援事業と別に、今年に入って**わずか1ヶ月半**（令和3年2月15日～令和3年3月31日）だけ実施の**「川越市新型コロナウイルス感染症患者転院受入協力金」**というものがある。これは転院受入を行う**対象患者1人当たりに250,000円**を、転院を受け入れた市内の**医療機関に協力金として市が払うもので患者への給付金ではない**。

勿論、各医療機関は国の該当支援を受けられる。

たとえば、国から給付金が出た病院でも、これら**「川越市独自」**の支援金は給付されたわけだ。こうして見ると、川合市長は**医療関係、医師会**などには**手厚い支援**をしていることがわかる。昨年の、**国民1人10万円の特別定額給付金**の給付事業に、川越市は**2億円**（これも市税）を委託業者に投じながら、近隣市と比べても際だって給付が遅く、職員の態度も悪いとのネット市民の怒りの声も多かった。それに比べて、川合市長の**医療機関、医師会への厚遇**は明らかだ。

特に今年２月から、今年度内に駆け込むように実施された転院受け入れ医療機関への協力金などに至っては、まるで川合善明市長４期目当選の**「ご祝儀」**にさえ思えてくる。これだけ手厚い施策をするなら医療機関や医師会でなくとも川合市長を応援して不思議ではない。

未来を担う新生児には「薄い給付金」！

市長に言わせれば「市民の皆様の健康と生命を守る」からこその医療支援策なのだろう。勿論、新型コロナウイルス感染症が重篤化する高齢患者のためにも医療機関の支援は必要だ。だが客観的な事実として、本年２月 21 日までの川越市の**コロナ患者数累計 1391 人**のうち**死亡者は 25 人**、現在の**療養者は 51 人**である。

一方、具体的な支援となる給付金を必要としているのは**35 万人の一般的な川越市民**である。では、川合市政は一般市民にどのようなコロナ施策をしてきたのか？

前出、市の保険医療部保健医療推進課は「**川越市独自**」の一般市民への支援として「**赤ちゃん応援手当給付事業**」を挙げた。令和２年４月１日～令和３年３月 31 日生まれの**対象者**（新生児）１人につき**３万円を給付**するという。

言い方を変えれば、何重もの支援がある医療機関と比べて、川越市独自の一般支援策はこれくらいしかない。ちなみに同じ新生児支援を行っている隣の**坂戸市では1人当たり 10 万円の給付**である。川越市は７万円も低いのだ。いかに、川合市長のバランス感覚が偏っているか「**具体的にわかる**」というものだ。妊婦や新生児にとってもコロナ禍の脅威は高齢者と同等である。だが、川合市長の認識では、未来を担う「**赤ちゃん**」への支援は、祖父母からの祝い金より安い給付金で十分だということのようだ。

こうした視点で見れば、川合善明市政の「**コロナ無策**」は明白だと言って良い。

医療機関への支援それ自体は批判されるべきことではない。しかし、他方で市民一般が川合市政のコロナ対策とその行政努力を実感できているのなら、特別定額給付金の頃から市民がネット掲示板に、川合行政の怠慢、傲慢への怒りを書き込むことなどなかっただろう。医療機関に手厚い給付金を積むことがコロナ対策ではない。

市民社会の全体を見渡し、**社会的な弱者を救い守る**ことこそが市長の執るべき対策でなければならないが、川合市長にはその使命感も意欲も窺えない。

市が提出する「コロナ議案」は皆無！コロナ禍を口実にしただけか？！

平然と市民を裏切る4期目川合市長の嘘…ウソ…うそ！

市長初当選時、自らが提案し制定した「**多選自粛条例**」を、この４期市長選に出馬するために自ら廃止した川合善明市長は、行政指揮の経験が豊富なベテラン市長の自

分こそが、コロナ禍を乗り切るために必要だと吹いた。本紙から言わせれば、川合市長は単に**「馬齢を加えた」**だけで行政指揮の知見など持ち合わせていない。

それでも市長として当選してしまったからには、公約通りコロナ対策に取り組まなければならない。ところが、４期目市長になって初となる本議会には、市から提案された**「コロナ対策議案」**は、なんとゼロなのである。一方、市長選に敗れた新鋭候補・川目武彦氏は、選挙公約で**「新型コロナウイルス感染予防条例化」**という具体的な公約を掲げていた。

このような具体的な政策を宣言した立候補者・川目氏を**「訳のわからないフェイク･パフォーマンス」**などと誹謗することが市長への忠誠心だと錯覚するような非常識な市民にチヤホヤされて満悦するのが川合市長であり、その姿勢はこれまでの 12 年間となんら変わることもない。もし川目氏が市長になっていれば、今頃、議会では市長提出のコロナ感染予防条例案について議論されていたことだろう。

結果、川合善明氏は、川越市長という権力の座を老いてなお手放したくないがために、多選自粛を潰し、コロナ禍を絶好の口実として恥も外聞もなく市長選に打って出た。それが真相だということを、**「コロナ議案」**が皆無の本議会が証明したのである。本紙と賢明なる川越市民なら誰も今更驚かないが、４期目川合市長は、初めから市民を裏切る嘘つきだ。それは 3 期 12 年間変わらぬ**「川合印」**の川越市政の伝統芸に達していると言えよう。

川合善明という市長が始末に負えないのは、その限りない自己愛と自己中心に溢れた世界観である。４期目市長当選を受けての市政方針演説の冒頭に戻る。

―川合善明市長―

これまで取り組んできた 3 期 12 年間の市政が、評価をされた結果であると重く受け止めております。

本人は、これまでの市長としての実績が市民に評価された結果で 4 期目市長に指名されたと、どうやら本気で信じているのだ。本議会で、日曜日の国民的テレビアニメ『サザエさん』の 1 本分よりも長い時間を無駄に使って、ニセの読経ごとくの空疎な市政方針演説を開陳した川合善明**「新市長」**。諸問題での議会の追及は必至だろう。

本紙は**3月23日に閉会**するまで、本市議会のトピックを順次レポートしていく。